満蒙開拓平和記念館 開館10周年記念
飯田日中友好協会60周年記念

「一九四六」展

王希奇【ワンシーチー】

WANG XIQI

一人ひとりの心の声を 記憶に残したい

中国人画家が描く日本人の「満州引揚げ」
縦3m×横20mの迫真の大作
葫蘆島（ころとう）の港で引揚船に向い列をなす数百名の群衆
この中に あなたの父や母 そして
あなた自身がいないだろうか

2023.3/21(火・祝)→26(日)

時　間｜9時30分～16時30分（入館16時まで）

会　場｜満蒙開拓平和記念館 セミナールーム
長野県下伊那郡阿智村駒場711−10　TEL.0265-43-5580

入館料｜一般600円 小中高校生300円（団体20名以上100円割引き）

今、伝えなければならない満蒙開拓の歴史。
満蒙開拓平和記念館
〒395-0303 長野県下伊那郡阿智村駒場711-10　TEL&FAX.0265-43-5580
https://www.manmoukinenkan.com

主　　催｜満蒙開拓平和記念館・飯田日中友好協会
特別協力｜城西国際大学、宮城・王希奇「一九四六」展を支援する会
特別協賛｜阿智村、阿智村教育委員会
後　　援｜長野県、長野県教育委員会、長野県日中友好協会、信州葫蘆島友の会

《一九四六》2012−2015年 油彩、画布300×2000㎝ 作家蔵

王希奇（ワン シー チー）氏 略歴

画家。中国錦州市に生まれる。魯迅美術学院油絵学部に勤める。中国美術家協会会員。東洋的墨絵の要素を西洋油絵に自然に融合させた画風で評価される。特に歴史をテーマとする創作を得意とし、その独特な画風とオリジナルな視点で国内外の注目を浴び、既存の流派に属さない独立した芸術家と評される。なかでも、国家金メダル賞を獲得した《三国志・赤壁の戦い》(合作)、中国国家重大歴史題材美術創作プロジェクト入選作品《長征》、《遼瀋戦役　攻克錦州》（合作）および《官渡の戦》などの大型絵画が代表作である。油絵のほか、墨絵の《回声》、《高原人》、《聴雷》などの作品も全国美術作品展に入選。数多くの作品が中国美術館、中国国家歴史博物館、中国国家軍事博物館などに収蔵されている。近年では、2012年から2017年にかけて、葫蘆島港より105万人余の日本人の大送還をテーマとした大作《一九四六》をはじめ、関連するシリーズ作品計50点を制作した。

満州国

現在の中国東北部に位置し日本が主権を握った「傀儡国家」とされている。1932年3月建国宣言、1945年8月日本の敗戦とともに崩壊。1931年 柳条湖事件から始まる満州事変で関東軍(日本陸軍の満州駐留部隊)が主要都市を制圧。翌年3月、「清」国最後の皇帝愛新覚羅溥儀を元首とした「満州国」の建国を宣言。「五族協和」「王道楽土」などのスローガンを掲げたが、権力の中枢には関東軍や日本人がいた。

満蒙開拓団

「満州国」に送出された農業移民。1936年に「満州農業移民100万戸移住計画」が国策となり、終戦までに日本全国から約27万人が渡っていった。そのうち長野県が3万3千人で下伊那郡の送出数が最も多い。

ソ連軍侵攻と敗戦

1945年8月9日、ソ連軍が満州へ侵攻。青壮年男性の多くは軍に召集されており(根こそぎ動員)、開拓団に残されていた女、子ども、老人たちの逃避行が始まる。一部の現地住民らが暴徒化し略奪や襲撃が相次ぎ、各地で日本人の集団自決なども起こる。さらに終戦後はソ連軍の占領下で祖国への帰国が叶わず、避難民生活の中、飢えと寒さと病気で犠牲になった人も多く、残留孤児・残留婦人がうまれる。

葫蘆島（ころとう）

「満州国」には155万人もの日本人が住んでいたといわれ、大多数が戦後も取り残されていたが、終戦の翌年1946年5月からようやく引揚げが始まる。葫蘆島という港が日本への引揚港と決められ、人々は内戦が始まり混乱する中、葫蘆島に向けて大移動を始める。引揚船は主にアメリカ軍艦が使用され、2年間で約105万人が帰還を果たす。しかし、中国人に預けられた日本の子どもたちや内戦に留用された人、ソ連へ連行された人たちなど葫蘆島まで来られなかった人も大勢いた。

満蒙開拓平和記念館 開館までの経緯

2006年　飯田日中友好協会の定期大会で記念館事業採択
2007年　建設資金寄付金集めに本格着手
2008年　阿智村より建設用地無償貸与の申し出をいただく
2009年　「山本慈昭記念館」事業と統合
2010年　一般社団法人としての法人格を取得
2012年　林野庁、長野県、南信州広域連合より建設補助金確定
　　9月11日着工
2013年　4月25日開館
2019年　9月30日別館セミナー棟竣工